

## 横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	港南はるかぜ保育園
報告書作成日	2007 年 1 月 11 日 (評価に要した期間 4 か月)
評価機関	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター

### 評価方法

自己評価方法 (実施期間:2006年7月中旬 ～2006年9月30日)	非常勤を含めた全職員が自己評価に取り組み、各クラス毎にチーフリーダーが取りまとめ、その後主任・園長が全体を集約した。
評価調査員による評価方法 (実施日:2006年11月13日・17日)	評価調査員(2名)による現地視察や書類確認、面接ヒアリング調査(主任、看護師、栄養士、園長)を行った。 また、職員(新人、中堅、非常勤)にも1対1のヒアリングを行った。
利用者家族アンケート実施方法 (実施期間:2006年月9初旬 ～2006年9月19日)	全園児141名に対する保護者115家族(世帯)を対象とし、事前に園長と評価機関の連名でアンケート依頼文を連絡帳に挟み込み、園から手渡し、約2週間の回答期間を設け、匿名で直接評価機関に返送してもらった。
利用者本人調査方法 (実施日:2006年11月2日)	全園児141名のうち、予め園側にリストアップを依頼した中から10名(園児の7.1%)を対象に、評価調査員2名が保育観察(0～4歳児4名)、本人聴き取り調査(5～6歳児6名)を行った。

## 評価結果についての講評

### 【施設の特徴】

- 当保育園は、「将来の国家を担う子どもたちには、健全な環境の中で健やかな成長を保障し、且つ地域に開かれた場で、多くの人々・子ども同士の触れ合い、お年寄りとの交流を通して豊かな心、健康な体を育成する場として、専門性を持った施設を提供することが大事であると考えています。」と明記された法人理念のもと、平成12年4月に横浜市港南区日野に設立されました。JR港南台駅からバスで5分程度にある当園は、閑静な住宅街の一角にあり、また幹線道路沿いに位置していますが、この道路を背面にして約15mほどの高所にあるため、その騒音や振動等は感じられず、静かな環境にあります。
- 園の目標とする「友達を大切にする」「自分のことは自分でする」「礼儀作法を身につける」を具体的に実現するため、日々の保育サービスが提供されています。年間を通しての裸足保育や近隣公園への散歩、また園庭での集団遊び等健康な体作りや集団の中での関わり方を身につける保育が実践されています。
- 乳児クラスでは、ベビーマッサージやわらべうた遊びを通して触れ合いを大切にし、また、「心育て」を身につけて行く過程で、0～5歳児までそれぞれ発達に合った内容の絵本読みを毎日行い、さらに専任講師による体操、音楽、美術、また栄養士と連携しながら行われている「わくわくクッキング」など多彩なプログラムを用意し、子どもたちが自ら興味を持って参加できるような、子どもの育ちに沿った保育が行われています。園目標の集大成として、毎年5歳児が参加する箱根キャンプ(1泊2日)では、日頃の保育の実践が子どもたちの行動や自信として現れています。
- また、「産休明け保育」「完全給食」「育児相談・講座」「一時保育」等、保護者にとっては「育児と就労」の両立の中で、自己実現が可能となるように様々なサービスを提供しています。平成17年2月からは「24時間型緊急一時保育」事業（横浜市内で現在2園）を開始し、休日や夜間、宿泊も含め365日対応しています。
- 現在、地域住民や各関係機関とは積極的な連携を図っている当園ですが、開設当初は通園のための車両通行の増加等による理由から近隣住民による建設反対の動きがありました。以来、地域の中に根ざした園づくりを目標とし、地域との交流を「地域交流年間計画」に盛り込み、保育園主催行事への呼びかけや地域主催行事への参加、また定期的な地域の公園清掃等を積極的に行ってきました。その努力により、地域との交流はもとより、ボランティア・実習生の受入れや他園からの見学の受入れ、また地域の小学生が放課後に立ち寄り在園児と交流するなど、現在では地域に開かれた「地域の子育て支援拠点」としての役割を担う存在になっています。
- また、保育サービスが計画どおり実践されている中、現場職員が安心して保育に邁進できるよう法人経営の安定を経営者は強く意識しており、そのため策定された中長期計画には具体的な内容が盛り込まれ、その積極性が感じられます。
- このように当園は、園長（理事長）の願いでもある「地元で根ざした保育園」「安心して通える保育園」「先生たちの明るく元気な笑顔が溢れる保育園」を実現しつつ、地域の「子育て支援の場」「親と子どもの育ちの場」として機能し、サービス展開が図られています。

### 【特に優れていると思われる点】

#### ①子どもの健やかな成長を実現させる、多彩なプログラムの提供

- 子どもたちが自信を持ち安心して小学校に入学できるよう、体力づくりや必要な教育を身につけ、また子どもたちの健やかな成長と幸せを実現するために様々なプログラムを用意しています。

- 毎週 1 回程度、音楽や絵画、体育のそれぞれ専任講師による指導のもと、リズム遊びや絵画・工作、ドッジボールやわらべうたによる手遊び等を日常保育の中に取り入れています。絵画では、課外活動として 4 歳児以上と地域の小学生による「アトリエ・キッズ」が毎週開かれ、園内に留まらず異年齢交流が図られています。地域の保育園同士で行われる「ドッチボール大会」では優勝するなど、子どもの運動能力の向上が形として現れています。また、散歩中に拾ってきた木の実や近隣の畑で収穫した芋など自然の素材を活用し、自由に表現した作品の展示をするなど、子どもの発想を大切にしています。遊具や遊び、また保育士の対応は個々に応じて行われていますが、園の方針として、自宅では味わえない同じ世代同士の学び合いや集団遊びの機会を大切にしています。
- 子どもたちと栽培した野菜を食材に活用し、子どもも調理に参加する「わくわくクッキング」を毎月 1～2 回定期的に実施しています。園庭で栽培しているオリーブの実を収穫して作った塩漬けや、子どもとともに 1 年間かけて仕込んだ手作り味噌など、調理・栄養士と連携した食育への取り組みは、保護者からも好評を得ています。
- 上記以外にも、「みかん狩り」「芋掘り」「秋刀魚焼き」「お泊まりキャンプ」（箱根）等の行事や、「文字練習」等様々なプログラムを用意すると同時に、一人ひとりの子どもに応じた細やかな対応をしています。特に配慮が必要な子どもについては、担当保育士や保護者また、常勤の看護師と連携のもと、子どもに応じたプログラムを設定しています。横浜市南部地域療育センターの巡回訪問や港南区と療育センターを中心に組織した「青い鳥」に園長が参加するなど、障害のある子どもへの関わり方について学び、また助言を得てプログラムに反映させる体制が出来ています。

## **②地域ニーズに応える開かれた園づくり**

- 地域との交流に関して作成されている「地域交流年間計画」に基づき、地域との交流は積極的に行われています。夏祭りや運動会、もちつき大会等園の行事に地域の方々を招待したり、地域の行事に子どもが参加するなど、双方向の交流が行われています。また、毎月町内の住民と一緒に子どもと保育士が近隣の公園清掃に参加するなど、地域のコミュニティづくりにも参画しています。
- 毎年秋に開催される『遊びにおいでよ！子どもフェスティバル“秋”』では、地域の保育園・自治会・消防署・横浜市交通局・地域ケアプラザ等と協働し、遊び体験コーナー（木の実遊びや落ち葉プール等）や子育て相談コーナー（保健士が対応）を設けるなど、育児支援事業イベントを開催しています（平成 18 度は 1,058 人の参加）。園長が実行委員長を務めるなど、地域との関係機関とは顔の見える連携体制が出来ています。
- 地域住民に向けて育児講座の開催や、子育て支援便りの配布や掲示など子育て支援の取り組みを行っています。一時保育では、預かり枠を出来る限り広げるなど地域ニーズに応える姿勢で事業展開が図られています。また、地域の小学生が放課後自由に立ち寄り学習したり日常的に園児と交流しています。今後は、日々の実績を基に「学童保育」の実施も念頭に置きながら、子育て支援の拠点としての役割が果たせるように計画しています。
- 定期的に（月 2～3 回）「施設開放」を行い、水遊びや育児講座や在園児と交流する機会を設けています。また、子育て支援の一環として「一時保育」「24 時間型緊急一時保育」（市内で当園含め 2 園）も行っています。一時保育を利用した保護者には、気軽に育児相談に応じたり園庭開放や催し行事を案内した年間スケジュール表を配布するなど、気軽に園に立ち寄れる雰囲気づくりにも配慮しています。

### ③将来を見通した中長期計画の作成

○当園は、園長（理事長）の意識を反映して、法人としての「中長期計画」が策定されています。その概略は、当面の課題として、①補助金の削減→今後の経営戦略・方針の再構築 ②次世代育成支援計画→待機児童の解消・地域の子育て支援としての一時保育事業の充実 を掲げ、中・長期計画としては、①少子化対策としての職員の質の向上 ②公立保育園の民営化に伴う受託 ③保育・学習面における新方式の導入 ④地域の子育て支援の拠点 ⑤学童保育(キッズ)の実施を掲げています。

○これらに対応する当面の施策(例えば、次のリーダーの養成等)が、着実に計画され、実施されています。園長はそのためにも、積極的に外部情報の収集を実践し、必要なものについては、園のリーダー会議等で議題に挙げ園内関係者の共通の課題としています。将来の目指すべき方向が明示されることにより、個々の職員はそれぞれの立場で自分がその課題実現のために何をなすべきかが明白となり、積極的に自己研鑽に取り組んでいます。

### ④子どもが安心して過ごせる安全な環境づくりへの取り組み

○園舎及び園庭は、子どもたちが生活するスペースが十分に取られ、定員 120 名に対し、約 1,050 m<sup>2</sup>の建築面積を有しています。また園庭は、運動会が実施できるほどの広さ(約 400 m<sup>2</sup>)があり、子どもたちがのびのびとかつ安全に園庭遊びができる環境が確保されています。室内はオープンスペースで、天井が高くのびのびとした空間があり、可動家具等の配置により、多様な空間作りを工夫し、提供されるさまざまな保育内容に合わせるとともに豊かな生活の場を提供しています。

○玄関は、自動ロック・指紋照合式を採用し、安易に侵入できないシステムになっています。緊急通報の連絡網が各保育室に掲示されている他、24 時間型緊急一時保育を行っている別館は、モニター付のインターフォンや防犯カメラ(24 時間監視カメラと録画機能)を数箇所を設置し、人や物が近づくとブザーが鳴るシステムになっています。また、職員がボタンひとつで警備会社につながる「ペンダントスイッチ」を設置しています。さらに一時保育利用の保護者は写真入の身分証を携帯するなど防犯体制への積極的な取り組みがなされています。

○災害時や不審者対策として毎月の防災・避難訓練をはじめ、万が一その日に起こった災害を想定し、それぞれ持ち場の各職員の行動や役割が明記された「災害時役割分担カード」があり、毎日、朝礼の際に当日の分担が受け渡される仕組みになっており、危機管理意識を高めるよう全職員が携帯しています。

○また、地球環境への配慮として省エネ及び資源のリサイクル等に関し、先駆的な取り組みがされています。保育活動の中でも、開設後からごみの分別や減量化・生ごみ処理機械の導入・資源の節約等に積極的に取り組んできました。例えば、衛生上の配慮として使用している手拭きのペーパータオルとティッシュは子どもの大きさに合わせて半分の大きさに切って使用したり、保育活動における遊びの中に「ごみの分別ゲーム」を取り入れるなど、子どもたちにも掛け声だけでなく実態として理解できるような努力もしています。

○省エネ、二酸化炭素の削減等の取り組みとしては、太陽熱を利用した太陽光集熱喚起システム(OMソーラーシステム)を取り入れています。火を用いず空気を汚すことなく床を暖かくすることの出来るこのシステムは、床近くで活動する子どもたちに、安全かつ快適な生活空間を提供しています。更に、紫外線カットの真空ガラス(省エネ大賞受賞商品)、合わせガラスを採用するなど、省エネと安全に配慮がなされています。

## **〔特に工夫や改善などを期待したい点〕**

### **①改善のための積極的な意見・要望を汲み取るしくみ及び分析の必要性**

○園には、寄せられた苦情や要望に積極的に取り組む姿勢があり、その仕組みも出来上がっています。しかし、苦情として処理した事例はほとんど少ないのが現状になっています。苦情が少ないのは結構なことです。寄せられた多くの要望等の中には将来的には苦情に発展しかねない要因が含まれている可能性もあると思います。再発防止に留まらず、予防的見地からも積極的な対応が望まれます。

○様々な行事において積極的にアンケート調査が実施されています。しかし、その内容の細かな分析等の実施までには至っていませんでした。アンケート結果は貴重な利用者や外部からの意見であり、有効利用されていないのが惜しまれます。目的を明確にし、アンケートの設問項目の工夫等により必要な情報を集める努力が期待されます。

### **②職員の力量アップのための取り組み**

○園の理念や方針の実現に向けて、また前述の中長期計画の具体的な実現のため各種の研修計画が策定され、必要に応じて研修等が実施されています。「2006 年職員研修年間計画表(全体研修、リーダー研修、給食関係、方針の徹底,その他)」によれば、そこには可能な限り職員の希望が反映され、「新人、派遣職員に対する研修、中堅職員研修、リーダー職員研修」等が計画され、積極的に対応されています。

○しかし、目的を持って参加した研修において、その成果が職員の力量のアップにつながったか否か、その有効性のチェックがなされていないように思われました。1 年の研修結果の総括として「職員研修実施報告」が作成されていますが、その内容は研修内容のまとめが中心になっており、研修内容の有効性を評価したものまでには至っていませんでした。研修の目的は園に必要な人材の育成であることから、その目的をいかに達成したかを評価し、次年度の計画等に反映する仕組みづくりを期待します。

### **③保護者と協働する更なる取り組み**

○保護者会の組織化については、以前、全保護者にアンケートを行い、保護者の意向から今のところ保護者会組織の必要性は低いと園では判断しています。保護者会はないものの、各クラス毎に保護者の協力を得て卒園に向けての役割分担が決められるなど連携する体制になっているのが現状です。しかし、保護者アンケートの一部に、保護者とのコミュニケーション不足と思われる声が挙がっていました。少数意見ではありますが、園の取り組みが十分に伝わっていない保護者もいる現状や、今後保護者の意向が変わることも考えられますので、保護者会の必要性について再検討をしてみてもいいでしょうか。


○個別の家庭訪問や行事ごとに行われるアンケートの実施など、保護者個々の意向を汲み取る仕組みは出来ていますが、個人・クラスを超えた保護者全体を横断した声を汲み取るための工夫をすることによって、一層保護者全体との関係も強固なものになると考えます。今後、さらなる取り組みを期待します。



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

## 評価領域Ⅰ 利用者本人の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<b>Ⅰ－１ 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもが健康安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る」とした園の基本方針は、子ども本人を尊重した内容になっている。</li> <li>・この方針を明記したカードが名札の裏に付され、全職員が常に身に付けている。また、2～3ヶ月に1回、方針や園目標を全職員が読み合わせを行うなど、理解に向けた周知が図られている。</li> <li>・保育計画の根幹は園長が作成しそれをもとに職員会議等で全職員が検討に加わり、保育内容や年間行事の計画を立てている。月、週の計画などはクラスを中心に立て、職員間での助言や検討をふまえて作成されている。</li> <li>・また、保育計画は地域に開かれた施設を目指した法人の理念に基づき、自然や身近な環境に触れたり地域交流事業を計画に盛り込むなど周辺環境を考慮した内容になっており、また保護者面談等で得た情報をふまえ、就労状況など保護者の実情を考慮して作成されている。</li> <li>・指導計画は保育計画に基づき、年齢毎に1年を4期に分けて、さらに月、週、日（案）と指導の流れが明記されており、保育士は子どもたちの年齢や発達に応じ納得がいくように順を追って説明したり、子どもの意見を取り入れながら自主性や主体性を育むよう計画され、実施している。</li> </ul>
<b>Ⅰ－２ 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前には、必ず保護者及び子どもとの面接を行っている。また、その記録を「新入園児記録票」や「児童票」等に残し、入園までの成育歴や家庭での状況を把握している。面接時に把握された内容は日々の保育の中に活かされ、毎日の連絡会議や毎月のクラス会議等で確認し、必要に応じて見直しを行っている。</li> <li>・入園時の面接において、必要な場合は短縮保育（ならし保育）の説明を行い、実施にあたっては子どもの様子をみながら状況に応じ、保護者と良く相談のうえ決めている。0,1歳の新入園児に対しては主担当保育者が決められ、子どもとの信頼関係を大切にしている。</li> <li>・「クラスノート」や「連絡帳」また口頭で、その日の子どもの様子や連絡事項を、毎日保護者へ丁寧に伝えている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月案は、子どもたちの状況に応じ毎月関わっている全職員が参加して作成し、見直しや改善点を話し合っている。0 歳児においては、月齢に応じて指導計画を立てている。また、子どもの発達の状況や変化を記した「成長チェック表」を活用し、次期の計画に反映させている。なお、指導計画の評価や改訂については、保護者との連携のもとに行われている。例えば、アレルギーによる離乳食の開始時期等については保護者との話し合いをふまえ、看護師や栄養士等の意見も取り入れながら計画案を見直し、改訂している。</li> </ul>
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃はマニュアルに従い、「掃除チェック表」でもれのないように実施し清潔を心掛けている。また、乳児が直接触れる遊具等は頻繁に清掃や消毒をしている。</li> <li>・ハード面ではOMソーラーシステム（冬は床暖房であり、朝 6 時から 8 時半まで夏冬共常に外気を取り入れる仕組みになっている）・オゾン脱臭空気清浄機・加湿器・冷房機・暖房機・床暖房があり、季節や用途別に利用している。使用済みのオムツ入れには市販されている消臭・紙オムツ処理ポットを使用し、気になる臭いや病原菌もカットするなど清潔や衛生面での配慮をしている。</li> <li>・各保育室には子どもの高さに温・湿度計が設置されており、適切な温湿度管理がされている。また天窓を設け、陽光を十分に取り入れるよう配慮している。なお、室内のガラスは紫外線カットの真空ガラス（省エネ大賞受賞商品）・合わせガラスを使用するなど、子どもの健康や環境に配慮した取り組みがされている。</li> <li>・園内はオープンスペースになっており、隣のクラスの音は入りやすいが、それぞれプログラムを工夫（4 歳児が本を読む時は 5 歳児が外出等）したり、保育士間で声を掛け合いながら保育をしている。大きな音楽（CD 等）は避け、やわらかい響きのわらべうた等を取り入れている。</li> <li>・施設内外とも概ねゆとりのある造りになっており、食べる・寝る等の機能別空間の確保が来ている。建物の中央にはホールがあり、そこは 4 歳児の午睡の場としても活用している。またホールは、朝夕の異年齢交流の場としても年齢を問わず使用され、全員揃っての集会も開かれている。</li> <li>・沐浴設備、シャワー等が完備され、いつでも使用できる状態になっている。シャワーに関しては、A（0,1 歳児）、B（2,3 歳児）、C（4,5 歳児及び一時保育）棟・園庭・別館と、全てにシャワー設備があるので、個別対応が必要な子ども（アトピー等）に対し、どの年齢でもすぐに使用（対応）できるようになっている。</li> </ul>



#### I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力




- ・0～1 歳児については、保育内容や環境構成、保育士の配慮や援助などが記載された個別指導計画を作成している。また、幼児についても特別な課題(ちょっと気になる子も含め)がある場合には、個別指導計画を作成している。
- ・担当職員がその子どもの状況や保護者からの意見を把握した上で指導計画を見直している。必要に応じて速やかに会議等に諮り、子どもの発達状況に合わせた変更や見直しを行っている。また、「保育所保育指針」を基にした園独自のチェック項目(健康・言葉の発達度等)を作り、一目で目標の達成度や評価が分かるようになっている。毎月1回、全園児を対象にクラス担任がチェックをしている。
- ・計画の重要部分の作成や見直しについては、その都度保護者に説明し、同意を得てから行っている。また、保護者に説明をする時には、必要に応じて看護師など専門職員も交えて対応している。また、子どもや家庭の個別状況や要望は、詳細に「児童票」や「経過記録」等に記載し、毎月1回クラスリーダーがチェックしている。「健康台帳」は看護師がチェックしている。
- ・「児童票」など子どもの情報がわかる書類は鍵のある事務所のロッカーに保管されており、必要に応じて職員はいつでも見られるようになっている。子どもの情報で全職員が把握すべき事項は、朝礼や終礼及び「連絡ノート」等を有効に活用し、周知している。また、進級に際しては引継ぎの会議を開催し、「児童票」や健康・家庭面に関して配慮事項が明記された「一覧表」等を使用し、申し送り事項を詳細に伝達している。

#### I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み








- ・特に配慮を要する子どもに関しては、クラス会議等で配慮点等を確認するなど、積極的に話し合う機会を設けている。その記録は「クラスノート(連絡ノート)」等にまとめられている。日誌は、別ファイルにまとめられ、健康状態(機嫌や顔色、皮膚、食事状況等)や子どもの様子、特記事項、家庭からの連絡事項が記載されている。また保護者の同意を得て、年2回横浜市南部地域療育センターの巡回訪問を受け、助言や情報を得ている。
- ・障害児には「個別計画」と「個人日誌」があり、その子どもに関わる複数の職員で、情報の共有や計画や対応について定期的な見直しを行っている。港南区と横浜市南部地域療育センターを中心に「青い鳥」という組織をつくり、定期的に障害児についての知識や対応等についての学習を行い、園内研修を通して全職員に周知する体制が出来ている。また、「障害を個性」として捉え、助け合う心を育む教育を目指し、日頃から子どもたちには「目が大きい、口が小さい・・・、いろんな友だちがいるね」など、わかりやすい表現でノーマライゼーションの意識が根付くよう伝えている。





	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の「診断書」や「指示書」を基に栄養士や看護師、保育士が保護者と面談をし、その時の一番良い対応方法を話し合っている（例えば、花粉症の時は目薬をさし、散歩を控えるなど）。また、代替食や除去食の提供についても保護者と情報交換をし合い、連携しながら対応している。代替食（除去食）を必要とする子どもには、配膳の際間違えないようにプレートを利用したり、名前と除去品目のかかれたカードをつけ、職員間で声を掛け合いながら行っている。さらに、新人研修の中で「アレルギーとは」というレポートを提出させ、知識や理解を得る取り組みがされている。また、定期的な研修や会議の中でも話し合い、知識や対応方法について共有化を図っている。</li> <li>・外国籍や帰国子女への理解については、国旗づくりをしたり、オリンピックやワールドカップサッカーを話題にしながら文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違い等を認め、尊重するように話している。また、英語で一時保育に関する案内マニュアルを作成したり「保育に必要な英語」という辞書を常備し、対応している。必要に応じて横浜市国際交流協会から通訳派遣の支援を受ける体制があり、職員も認識している。</li> </ul>
<p>I－6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情受付に関する説明は、玄関と園の「しおり」に明記し、第三者委員（地域の自治会長2名）の連絡先も紹介している。また、玄関に意見箱を設置する等、日頃から苦情や要望を汲み取る仕組みが出来ている。各クラスの懇談会や必要に応じて実施しているアンケート等でも、保護者からの要望や苦情に関する情報を収集している。さらに、苦情解決窓口機関として、横浜市や港南区の担当窓口を紹介したパンフレットが園内に設置されており、保護者に周知している。</li> <li>・毎月の園だより「はるのこえ」の裏表紙に、保護者からの要望や意見を載せるページを設けている。また、年1回全保護者を対象に家庭訪問（5～6月頃）を実施するなど、保護者の意見を直接聞く機会も設けている。</li> <li>・保護者からの要望や苦情に関しては職員会議等で話し合われ、全職員に共有されている。当該クラス以外の事項についても園全体の問題として捉え、未然防止の話し合いが行われている。また、苦情に関しては小さな苦情でも緊急リーダー会議を開き内容を把握し、その後全職員に伝達する仕組みが出来ている。要望や苦情となった原因を確認しながら、解決に活かしていく努力をしている。</li> </ul>

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容【遊び】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッジボールをはじめ、年齢に合ったゲームを一貫したルールの中で行っている。園の方針として、自宅では味わえない同じ世代同士の学び合いや集団遊びを大切にしている。</li> <li>・保育士は子どもたちと一緒に遊びながら関わっている。一人ひとりに話し掛け、それぞれの興味や関心を友達と共有できるような配慮をするなど、子どもたちの様子や状況を見ながら細やかな対応をしている。</li> <li>・子ども達と栽培した野菜を食材に活用し、子どもも調理に参加する「わくわくクッキング」に発展させるなど、食育につなげた取り組みをしている。また、園庭のオリーブを約 10kg 収穫し、塩漬けを作ったり、5 歳児は 1 年前に仕込んだ手作り味噌を使い、おやつに五平餅を提供するなどしている。4 歳児もこの味噌作りに取り組み、1 年後においしい味噌を食べることを楽しみにしている。（毎年恒例となっている。）</li> <li>・園庭での遊びや地域への散歩を積極的にプログラムへ取り入れている。5 歳児では行事に箱根登山があるので、子ども達も目標を持って体力づくり（散歩）をしている。</li> <li>・地域へ散歩に行く機会を多く設け、じゃがいも、さつまいも、大根掘りやみかん狩りを定期的に行っている。</li> <li>・定期的に 5 歳児が地域の公園掃除に参加している。地域へ散歩に行く機会を多く設け、勤労感謝の日には近所の店舗を訪ねるなど、交流の機会も設けている。</li> <li>・様々な環境の中でその時不安定になっている子どもの対応については、全職員に周知のうえ担当職員を近くに配置するなど、常に注意して見守るようにしている。</li> <li>・保育士は、子ども同士がお互いをよく理解でき良好な関係が築けるよう配慮し、適切な対応をしている。</li> </ul>
<p>Ⅱ－１ 保育内容【生活】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偏食のある子どももいるが、食べられたらほめるなど、楽しく食べられる雰囲気大切にしている。初めて食べる物には、「少しでも食べてみようか？」と促し、また苦手なものなどは無理強いさせないように対応している。</li> <li>・授乳の時間や量をボードに記録し、個々のペースに合わせた対応をしている。園の指導として、乳児は一人ひとり抱き、目を合わせて授乳することを担当の保育士には徹底させている。</li> <li>・「わくわくクッキング」を毎月 1～2 回行っている。スイートポテトを作る際は、芋の皮むきや卵黄を塗るなどの調理に子ども達が関わり、調理や旬への意識づけや興味を持てるように工夫をしている。なお、4、5 歳児の当番は毎朝自分たちで米をとぎ、炊飯器</li> </ul>

	<p>でご飯を炊いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の給食会議（チーフリーダーと全調理職員参加）での話し合いや検食簿により、見た目や色合い、味付けや調理の工夫に反映させている。離乳食も含めた検食簿には、カロリーや量・度合のチェックの他、クラスごとの残食をチェックしている。</li> <li>・保育参加などの際には、試食を兼ねて子どもたちと一緒に食事をする機会を設けている。また、保護者との連携のもと、体調の悪い子どもには消化の良いものを作って提供するなどの配慮をしている。</li> </ul>
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機嫌、表情、体の動き、肌の異常、尿便の様子、子どもからの訴え等をチェックする健康に関するマニュアル「健康観察のポイント」に基づき、毎日子どもの体調の変化に気づけるよう確認している。乳児については、朝の受け入れ時、沐浴前、午睡前後、夕方にそれぞれ検温・記録し、健康状態を把握している。また健康や衛生管理については、看護師が常勤しており、担任の保育士と連携しながら保護者の対応もきめ細やかに行っている。</li> <li>・歯磨き指導については、乳児クラスでは保育士が仕上げ磨きをし、幼児クラスはひとりひとり歯磨き後のチェックをしている。</li> <li>・嘱託医と看護師が日頃より連携がとれる仕組みになっており、保育中の怪我や熱などの際は優先的に受診できるなどの配慮を得ている。また、健康診断前には保護者にあらかじめ医師に相談したい内容を聴いておき、医師からの助言を得ている。</li> </ul>
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生管理に関する「安全配慮マニュアル」（環境衛生編）が整備されている。保育室の環境や消毒、清掃の方法、プール管理についての規定など8項目に分けて明記されている。感染症については、内容や予防（配慮点）、感染症のリストや発病期間等が記され、対応方法についても明記されている。マニュアルはクラス内でいつでも見られる場所に置いてあり、項目ごとに持ち出し可能で、把握しやすくなっている。なお、年1回は見直しの必要性を含め、検討する機会を設けている。</li> <li>・年度の初めに園内研修を行い、手洗いの指導を含め衛生管理についての研修を行っている。</li> <li>・清掃箇所や手順が示された「清掃チェック表」に基づき、床、棚、窓、流し、おもちゃ、下駄箱等、漏れがないように毎日清掃している。</li> </ul>
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理に関する「安全配慮マニュアル」が整備されている。「子どもの健康編」（食事・睡眠・虐待・与薬等10項目）、「活動編」（行事・散歩・天候等16項目）、「とっさの時の応急処置編」（主な症状別の応急処置・蘇生法等6項目）、「緊急時編」（地震・火災・迷子・不審者対策等10項目）に分かれ、それぞれの場面毎</li> </ul>

	<p>に対応方法が明記されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故や災害の際、焦らずに自分の役割に対し適切に対応出来るように、毎日、朝礼の際にそれぞれの持ち場で異なる当日の「災害時役割分担カード」が受け渡されるシステムになっており、全職員が保育中に携帯している。</li> <li>・緊急連絡体制の連絡網が各保育室の壁に掲示され、いつでも連絡できる体制になっている。</li> <li>・保育室内には、事故や怪我が発生したとき通院する医療機関の一覧表や、地域や関係機関の連絡先が図表で掲示してあり、いつでも連絡する体制が出来ている。各クラスには、「災害用リュック」が常備されており、災害避難時には、薬箱やタオル、また保護者の緊急連絡先や保険証コピーの貼ってある子ども達の連絡カードをまとめて持ち出せるように準備してある。</li> <li>・玄関は自動ロック式、指紋照合式で安易に中へは入れないようにになっている。24 時間型緊急一時保育を行っている別館はモニター付のインターフォンや防犯カメラ（24 時間監視カメラと録画機能）を数箇所に設置し、侵入防止策が講じられている。一時保育利用の保護者は写真入りの身分証を携帯するようにしている。</li> </ul>
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は正しい言葉遣いを意識し、子どもの表情や様子を見ながら子どもの目の高さで話をし、子どもが自ら活動に参加したくなるような声掛けに努めている。</li> <li>・自分のクラスの保育（言葉や行動）の見直しが出来よう、他クラスの保育士が見学をする日を設けるなど、お互いをチェックする仕組みができています。</li> <li>・個人情報の取り扱いについては、職員がいつでも意識できるよう園内に注意事項を掲示している。ボランティアや実習生の受け入れの際に配布する関連資料の中に、守秘義務についての事項が明記されており、口頭でも説明している。個人情報が記載された書類を破棄する時は、必ずシュレッダーにかけ処分している。</li> <li>・虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応策については、保護者との面談や日頃の会話の中から、情報を察知するよう心がけている。必要に応じて、一時保育も積極的に利用するように案内している。</li> </ul>
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの降園時に、保護者にはその日の様子を伝えている。漏れなく伝わるように、連絡ファイルには伝言者がサインをする仕組みになっている。</li> <li>・乳児（０～２歳児）は、園独自の連絡帳「ばんびーの」を使用し、家庭から昨夜の入浴の有無、食事状況、排便状況、機嫌、起床時の体温や様子が記載され、それに対して園の様子をそれぞれ伝えている。年中・年長児（３～５歳児）にはクラスノートや口頭でその</li> </ul>



	<p>日の様子を伝えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園だより「はるのこえ」と各クラスの様子を伝える「クラスだより」を月 1 回発行している。「クラスだより」では、各クラスの様子や流行っていることなどを情報提供している。なお、保護者から「我が家の出来事」等を掲載するなど、双方向の情報掲示板的な役割も担っている。</li> <li>・保護者に対し、行事を終えた時にアンケートを実施するなど、保育方針を理解しているか確認をしている。</li> <li>・毎年、新学期（5～6 月頃）に家庭訪問を実施しており、家庭の状況を把握し、相談などにも応じ連携を深めている。</li> <li>・保護者会としての組織はないが、クラスごとに卒園に向けての役割が保護者間同士の中でとり決めるしくみになっている。保護者会の設立について、以前、全保護者にアンケートを行ったが、保護者の意向から今のところ保護者会組織の必要性が低いと園は判断している。</li> </ul>
--	--

## 評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園舎の設立や建て増し、車の駐車場の使用方法などに関して、また新しい事業を行った時など（24 時間型緊急一時保育など）、その都度地域の住民（自治会）に説明会を行い、園の方針や計画を説明したり、地域からの要望や意見を聴いている。また、町内の文化祭等行事には園も参加するなど、双方向の交流を行っている。</li> <li>・毎年秋に開催される『遊びにおいでよ！子どもフェスティバル“秋”』では、地域の保育園・自治会・消防署・横浜市交通局・地域ケアプラザ等と協働し、遊び体験コーナー（木の実遊びや落ち葉プール等）や子育て相談コーナー（保健師が対応）を設けるなど、育児支援事業イベントを開催している。園長が実行委員長を務めるなど、積極的な地域交流を図っている。</li> <li>・定期的に（月 2～3 回）施設開放を行い、水遊びや育児講座、在園児と交流する機会を設けている。また、子育て支援の一環として一時保育、さらには 24 時間型緊急一時保育（市内で当園含め 2 園）も行っている。一時保育を利用した保護者には、園庭開放や催し行事を案内した年間スケジュール表を配布している。</li> <li>・地域住民に向けて育児講座の開催や毎月子育て支援の便りを配布、掲示など、子育て支援の取り組みをしている。一時保育の預かり枠を出来る限り広げるなどの努力もしている。学童保育の実施も念頭に置きながら、今後、より子育て支援の拠点として役割が果たせるよう計画している。</li> </ul>
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自治会と連携して回覧板に園からの情報を掲載したり、園外の掲示板を利用するなど、情報提供している。</li> <li>・育児支援だよりや園の掲示板などで、育児相談に応じている旨を周知し、また育児に関する知識や情報を提供している。育児相談日は特に設定せず、随時受け付けている。平成 18 年度は 11 月現在で育児相談は 8 件となっている。</li> <li>・相談内容に応じて各関係機関と連絡がとれるよう、種別にリスト化した表を保育室などに掲示し、職員はいつでも連絡ができる体制になっている。</li> <li>・園長が関係機関との連携における担当責任者として、日常の業務にあたっている。園長が不在の場合は、主任が対応し引き継ぐ仕組みになっている。</li> </ul>





## 評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流に関し作成された「平成 18 年度年間計画」（地域交流年間計画）には、保育園主催行事への呼びかけ、地域主催行事への積極的参加の意図が記載されている。具体的な例として、夏祭り、運動会、グランマ・グランパ（敬老）フェスタ、卒園式、もちつきなどの園行事には、必ず自治会長を中心に関係者を招待し、敬老の集いには地域の敬老グループ（すみれ会）の参加もある。</li> <li>・毎年地域連合会主催の祭りに参加し、ダンスや歌を披露して交流を図っている。また町内の住民と一緒に、園児が近隣の公園掃除に参加しており、日曜日も職員が交代で参加している。</li> <li>・地域への散歩は積極的にプログラムに取り入れ、子どもが好きな消防車がある消防署（野庭出張所）、バスがある交通局の車庫等には頻繁に出かけ、職員と顔の見える交流を図っている。</li> <li>・勤労感謝の日には感謝を込めたプレゼントを持って、地域のお店や公園管理事務所などを訪問している。節分の日には年長児が子鬼に変身し、地域を一軒一軒回り、豆まき用の豆と手作りの入れ物をもって訪問している。</li> <li>・また毎年、野庭東小学校 2 年生が来園し、劇を発表したり野庭東小学校と日野小学校によるフェスティバルの招待を受け、年長児が参加している。地域の 3 つの保育園と公園で合流したり、どちらかの園に出向きダンスやゲームを楽しむなど、積極的に地域との交遊を図っている。</li> <li>・園開放の一例として、地域のイベントで音響セット、テント、ブルーシート、和太鼓などを貸し出している。これらは「地域支援交流ノート」に記録されている。また、園の掲示板や町内回覧等による周知により、地域の親子を対象に月 2 回、ホール、園庭、プール、図書コーナーなどを提供している。</li> </ul>
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の利用者に園情報を提供するため、園の「しおり」や地域の NPO 団体が発行する子育て広報誌、市のホームページ等により情報提供を行っている。また、保育関係の雑誌やテレビの取材（今まで 2 回）を受け、園の情報提供を行っている。区役所や地区センターに「しおり」「お便り」を置いて、園の情報を周知している。</li> <li>・園のパンフレットには、サービス内容や利用料金等を記載している。また、ホールには、一目で職員構成が分かるよう、職員一人ひとりの写真を掲示している。問い合わせには、主任が対応し、園の方針やサービス内容の説明を行っており、その記録も残されている。見学は随時受け入れている。</li> <li>・園の情報提供の中には利用希望者の見学できる旨を案内してお</li> </ul>





	<p>り、見学の曜日や時間帯は見学希望者の都合を配慮して決めている。また、見学時に園児と一緒に過ごす時間も、希望があれば設けている。</p>
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア及び実習生の受け入れにあたっては、「ボランティア・実習生受入れマニュアル」に従い、「しおり」や「園だより」によってあらかじめ職員や利用者に基本的な考え方や方針が理解されるよう説明している。ボランティアには、事前のオリエンテーションで、持ち物や服装、遊具の遊び方と約束ごと、守秘義務等について明記された資料を渡し、方針やルールなどを説明している。</li> <li>・受け入れと育成は主任が担当している。ボランティアに関してはボランティアカードが作成され、ボランティアの動機や活動希望日及び活動した日や内容が記載されており、経過がわかるようになっている。また、終了時の感想や意見は定められた様式に記録されており、今後の園運営の参考にしている。もちつき大会はボランティアからの意見を反映させた企画の実例である。</li> <li>・実習生については、事前のオリエンテーションで施設を細やかに案内し、方針やルールなどを説明している。実習生は決まった名札を付け、保護者にも分かりやすくしている。受け入れの責任者は主任が担当し、「実習反省会記録」等に受け入れ記録が残されている。受け入れに際し実習生には「活動案」が作成され、それには、ねらいや当日までの準備、予想される子どもの姿、保育者の援助と留意点等が明記されている。実習生の予定表は、職員フロアに掲示され、全職員に周知するようにしている。</li> <li>・事前のオリエンテーションにおいて、本人の特に学びたい点を確認し、実習プログラムに反映させている。希望があれば、夜勤（24時間保育）の実習も出来る範囲で応じている。毎日、担当保育士と一緒に休憩をとり、コミュニケーションを取りやすくしている。また、一日の終わりに、質問や感想を聴く時間を設けている。実習最終日には、関わった職員すべてが出席して、反省会を行っている。</li> </ul>


## 評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-1 職員の人材育成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の職員に期待する役割や人材育成の方法が、計画として策定されている。園内研修を実施し、全職員が園の方針や目標を理解した上で計画どおり日々の保育を実践しているか、業務マニュアルを確実に理解しているか等、園長が直に説明し確認している。また、月1回定期的に講師を招き、人材育成のアドバイスを受けたら直接研修を行っている。さらに、「保育者に求められる100の常識」という本を全員が所持し、自ら学んでいる。</li> <li>・ 個々の目標や課題を設定し、定期的（年度の上半期と下半期）に省みる「ステップ表」を作成し、達成度の評価を実施している。また、新人保育士に対しては日報をつけ、リーダー中心にチェックをしている。</li> <li>・ 園運営に必要なかつ適切な人材を確保、育成するため、毎年研修計画が作成され、必要とされる内部研修及び外部研修（研修会・大会等への参加・他施設での実地研修等）が積極的に実施されている。非常勤職員も、可能な範囲で研修に参加している。年2回行っている救急法（心肺蘇生法等）の研修は、非常勤含め全職員が必ず参加している。</li> <li>・ 経験や職種により研修計画には様々な研修が含まれており、職員自らが「この研修に参加したい」という気持ちを積極的に汲み上げる努力をしている。</li> <li>・ 研修を受けた職員はその都度研修報告書を提出し、園長の確認後ファイリングされ、全職員が見られるようになっている。特に、園外で研修をした職員は積極的に園内研修で発表したり技術を伝えるなど、研修成果を日々の保育に活かす努力をしている。また「年度職員研修実施報告書」が作成され、年間の研修内容の総括を行っている。</li> <li>・ 日々の職員配置は「業務・配置日誌」を作成する上で配置人数を確認し、経験の浅い職員やベテラン職員の組み合わせも考えながら行っている。また、資質向上のため、非常勤職員にも可能な限り外部研修を受けるよう指導している。指導担当者は主任が統括し、各クラスでの実際の指導はクラスリーダーが当たっている。毎日行っているクラスの連絡会議やクラス別職員会議に、常勤職員と同じように出席し、意見交換している。</li> </ul>
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月のクラス会議において、1ヶ月の振り返りとして「自己反省文」をそれぞれの職員が作成し自己評価を行い、保育内容や保育技術の見直しや確認を行っている。また、リーダー会議や担当別会議、毎日のクラス会議等で、サービス向上を意識した話し合いが実施されている。地域の保育園同士との実地研修や交流を通して気づ</li> </ul>

	<p>いたことをお互い指摘し合ったり、評価して学び合う機会を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に幼児教育研究会の講師による園内研修等を実施し、積極的に外部からの意見を取り入れる仕組みが作られ、実施されている。音楽や美術、体育等の専門講師（外部）による指導を週1回保育に取り入れているが、子どものみならず、各保育士が子どもを引きつけるノウハウを習得する機会としても利用している。</li> </ul>
<p><b>V-3 職員のモチベーションの維持</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの職務についての役割や期待水準が、「管理規定」や「業務マニュアル(職務分担表)」に明記されており、研修計画にも反映されている。経験や能力により考課項目や評価基準の異なる人事考課表があり、個々の期待水準に照らし合わせながら評価を行い、達成度を確認する仕組みがある。</li> <li>・最終的な責任は園長が取りとし、利用者の状況に応じ現場職員が自主的に判断できる仕組みになっている。行事の立案については現場の職員の意見を尊重した上で作成され、現場からの声により計画を修正することもある。</li> <li>・各会議の中で業務改善に限らず、積極的な意見が出されている。また、毎月行われる園長との面談時に、職員からの業務提案等を募る機会を設けている。</li> <li>・年度末には、1年間の総括としての園長面接を実施し、個々の職員の満足度、要望等を把握する機会を設けている。園運営に関する建設的な提案内容は、積極的に取り入れている。</li> </ul>

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則や業務マニュアル（「勤務の心得編」、「身だしなみ編」）の中に、社会人としての基本、セクシャル・ハラスメントの防止に関する規程等が明記されており、不正や不適切な行為を行わないよう職員に周知されている。また、「全国保育士倫理綱領」や「児童憲章」が職員室に掲示されており、専門職としての責務を日頃より認識して保育に関わるようにしている。事業者として守るべき法・規範・倫理等、経営者や園長は自ら率先して遵守している。</li> <li>・経営や運営等に関する情報は、リーダー会議で報告、説明され、各クラスへ伝達されている。財務に関する情報は収支の状況を踏まえ、運用理由を職員に説明している。</li> <li>・積極的にゴミの分別や減量化を実施し、資源のリサイクルのための取り組みを行っている。生ごみ処理機の採用もその取り組みの表れである。また、子どもたちにも遊びの中にごみの分別ゲームなどを取り入れ、資源の大切さを教えている。</li> <li>・手拭きのペーパータオルとティッシュは子どもにあわせて半分の大きさに切って使用したり、エアコンの設定温度や電気をこまめに切る習慣、ガラスは紫外線カットの真空ガラス（省エネ大賞受賞商品）を使用するなど、環境配慮への取り組みが実践され、職員も認識している。</li> <li>・省エネルギーの促進は園創設に当たっての園長の強い方針でもあり、OMソーラーシステムをいち早く導入するなど、その取り組みは積極的に行われている。</li> <li>・園舎周辺には、オリーブの木を栽培し、緑化への取り組みも行われている。また、子どもたちにオリーブの実の観察や採取等を通し、緑化の大切さを教えている。</li> </ul>
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念や方針等が記載されている園の「しおり」を職員全員に配布している他、保育の基本方針が明記されたカードを名札の裏に付け携帯し、いつでも確認できるようになっている。また、朝礼や会議等で周知（復唱）するなど、理解を促すための取り組みをしている。4月の園内研修では園長自らが園の方針を説明し、職員が理念や方針を理解しているか、園長面接などで定期的に確認する仕組みが出来ている。</li> <li>・保護者には家庭訪問（年1回）や保護者懇談会（年3回）を利用して、保育内容に留まらず園運営において意見を聴く機会を設けている。また、保護者アンケートも実施するなど、意見を汲み取る仕組みがある。</li> <li>・重要な意思決定に関しては、職員に対する周知は当然のこととし</li> </ul>

	<p>て、保護者に対してはクラス懇談会等で園長自らが各クラスを回り、分かりやすく説明している。また、毎朝園長が玄関（停車場）に出て、意見交換の時間を作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チーフやリーダーを中心に検討チームを編成し、組織を上げて取り組む仕組みが作られ、実施されている。食育への取り組みは、具体的なサービス展開がされた事例となっている。また、研修計画に基づき、全国保育士会主任特別講座（1年間の研修）、関東地区主任保育士研修会（4日間）、横浜市主催の「保育リーダー研修」等への参加により、スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムを設定している。</li> <li>・ 職員に対する助言や指導体制については、主任をはじめクラスをまとめるチーフ、棟をまとめるリーダーにより、職員の業務状況や体調が把握できる仕組みになっている。また、各クラスの「連絡ノート」や「業務日誌」等を確認することにより、個々の職員に適切な助言を与えている。</li> </ul>
<p><b>VI-3 効率的な運営</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月定期的に、全国社会福祉施設経営者協議会や全国保育協議会、日本保育協会等の月刊誌からの情報や、各保育園長会等様々な外部とのコミュニケーションを有効に使い、園運営に影響のある情報を積極的に収集し分析している。重要な情報は主要な職員間で共有するため、リーダー会議等で議論し、重点改善課題として取り上げている。これらの多くは、法人の「中長期的計画」の情報源として活用されている。また、現場から挙げた情報や検討事項に関してはリーダー会議で十分に話し合われ、業務改善等に結びつけている。</li> <li>・ 法人としての「中長期的計画」が策定され、「少子化対策」や「公立保育園の民営化に伴う受託」等、今後の園運営に影響を与えるテーマが取り上げられている。中長期計画は事務所内に掲示され、各職員にも周知されている。また、それらに伴う運営やサービスプロセスの新たな仕組みを積極的に検討している。また、次代の幹部候補者は専門の学校で学ぶ等の準備をし、計画的に後継者の育成に力を入れている。</li> <li>・ 園の運営に関しては、全国・県・市で行われる経営手法を学ぶ研修に園長が積極的に参加している。また、外部より専門講師を招き、トータルサポートとしてのアドバイスをもらっている。</li> </ul>



# 家族アンケート取りまとめシート(港南はるかぜ保育園)

## 結果の特徴

### 【調査対象】

港南はるかぜ保育園の全利用（園児）141 名に対する保護者 115 家族（世帯）にアンケートを実施した。

### 【調査方法】

事前に港南はるかぜ保育園と評価機関の連名のアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んでもらい、その後保護者懇談会で、説明、周知をはかり、2～3 日後にアンケートを依頼文と同じ方法で手渡してもらった。アンケートは約 2 週間の回答期間（平成 18 年 9 月 5 日～9 月 19 日）を設け、直接評価機関に返送してもらった。

### 【回答があった利用者及び回答者の概要】

利用者総数／ 141 名  
 調査対象総数／ 115 家族・保護者  
 有効回答数／ 64 通  
 保護者（世帯）総数に対する回答者割合（％）／ 55.7％

### 【回答があった利用者の内訳】

回答者の クラス	0 歳児 クラス	1 歳児 クラス	2 歳児 クラス	3 歳児 クラス	4 歳児 クラス	5 歳児 クラス	無回答
	18.8%	14.1%	20.3%	14.1%	15.6%	14.1%	3.1%

(％は小数第 1 位まで表示し、合計の小数第 1 位を四捨五入すると 100％になる。)

### 【利用者家族アンケート全体のコメント】

- 「総合の満足度」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が 96.9％になり、「満足」だけでも、80％近くになった。また、満足度をたずねた全 37 項目のうち、7 割にあたる 26 項目で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が 90％を超え（内 12 項目は 95％以上）、非常に満足度が高い結果となった。
- 項目別では、「遊び」についての 5 つの質問項目や「保育園の快適さや安全対策」についての 4 項目のすべてでプラスの回答が 90％を超え、さらに「保護者との連携・交流」についての 7 項目のうち 6 項目、給食や午睡などについてたずねた「生活について」でも 6 項目のうち 4 項目で 90％以上となった。
- 中でも「残業などで遅くなる場合の柔軟な対応」では、積極的なプラスの回答である「満足」だけで 85.9％（「どちらかといえば満足」を合わせると 93.7％）、「園舎、園庭などの施設について」は、82.8％(95.3％)となった他、「園の遊びについて（お子さんが満足しているか）」79.7％(98.5％)「給食のメニュー」78.1％(96.9％)や「落ち着いて過ごせる雰囲気」78.1％(98.4％)「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」76.6％(93.8％)など 8 項目が「満足」だけで 75％を超えた。広々としたオープンスペースや OMソーラーシステム、指紋照合式のセキュリティーシステムなどの施設設備面や活動別園庭で落ち着いて遊べる工夫、また、絵本読みや専任講師による「体操、音楽、美術、わらべうた」なども含め、年齢に合わせたカリキュラムが保護者に好評であることがうかがわれた。個別の意見欄にも「ソフト、ハード共にとても満足している」「日々の保育に感謝している」などの声が多くきかれた。また、保育士が笑顔で接してくれることに対する感謝の声も多くあがっており、職員対応の良さが感じられた。
- 「不満」や「どちらかといえば不満」の回答が 10％前後となった項目は、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」(12.5％)「ケガに関する保護者への説明や対応」(12.5％)「入園する時の費用やきまりに関する説明」(9.4％)など「説明」や「対応」等に関する 3 項目であった。個別の意見でも「ケガ」に対するさらなる説明を求める声などがあがっていた。

※各データについては、次のとおりです。

なお、各質問で「その他」に回答した方の主なコメントを掲載しています。

## 調査結果

### ■保育園の基本理念や基本方針について

(%は小数第1位までの表示とし、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる)

あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
(人)	22	35	1	5	1	0
(%)	34.4%	54.7%	1.6%	7.8%	1.6%	0.0%



あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	46	10	1	0	0	0
	80.7%	17.5%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%

### ■保育園のサービス内容について

#### 問2 入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	44	13	0	0	7	0
	68.8%	20.3%	0.0%	0.0%	10.9%	0.0%
	その他：・上の子が開園時入園のため見学していない(2件) ・上の子が通っていたので見学していない ・見学しなかった(2件) ・見学をお願いをしたことがないので分からない(2件)					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	38	19	2	1	4	0
	59.4%	29.7%	3.1%	1.6%	6.3%	0.0%
	その他：・上の子が通っていたのでなかった					
入園時の面接については	33	24	2	0	4	1
	51.6%	37.5%	3.1%	0.0%	6.3%	1.6%
	その他：・書類のみだった ・よく分からない ・園での面接ではなく、行政の面接だった ・していない					



お子さんの様子や育成歴などを聞く 対応には	43	18	2	0	1	0
	67.2%	28.1%	3.1%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他:・もう少し細かく聞いてほしい					
園の目標や方針についての説明には	33	27	2	1	1	0
	51.6%	42.2%	3.1%	1.6%	1.6%	0.0%
	その他:・覚えていない					
保育園での1日の過ごし方についての 説明には	36	23	5	0	0	0
	56.3%	35.9%	7.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:・タイムスケジュールや遊びの種類の内容をより詳しく説明してほしい					
入園後に食い違いがなかったかなど も含め、費用やきまりに関する説明 について	34	23	4	2	0	1
	53.1%	35.9%	6.3%	3.1%	0.0%	1.6%
	その他:・詳しく聞いていない(どちらかといえば不満に○) ・おむつ代が高い気がする(不満に○) ・受け付けてくれた時に、区から費用の話がなかった (どちらかといえば不満に○ 区への不満)					

### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明に は	42	18	4	0	0	0
	65.6%	28.1%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望 が活かされているかについては	30	22	7	1	4	0
	46.9%	34.4%	10.9%	1.6%	6.3%	0.0%
	その他:・行事の後に必ずアンケートをとっているが、確認したことがないので 活かされているのか正確に分からない ・分らない ・行事に参加できる年齢でないため不明 ・どのような要望があるのか分からないので判断できない					

#### 問4 日常の保育内容について

##### 「遊び」について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	51	12	1	0	0	0
	79.7%	18.8%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	46	17	0	0	1	0
	71.9%	26.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他:・アイス、飴、ガム、チョコ等虫歯になりやすいものが描いてある絵本を使っているので、今後の食事の好みが変わらないか心配					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	47	16	1	0	0	0
	73.4%	25.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	40	20	0	2	2	0
	62.5%	31.3%	0.0%	3.1%	3.1%	0.0%
	その他:・友達とどのように関わっているのか分からない ・消極的な子にもより一層の対応をお願いしたい					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48	12	2	0	2	0
	75.0%	18.8%	3.1%	0.0%	3.1%	0.0%
	その他:・健康づくりへの取り組みとして、具体的な説明がほしい					

##### 「生活」について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
給食のメニューの充実については	50	12	1	0	1	0
	78.1%	18.8%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他:・食品添加物のことや、食材の説明を詳しくしてほしい。化学調味料は添加物が多いので除いた食事にしてほしい					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	46	14	1	0	2	1
	71.9%	21.9%	1.6%	0.0%	3.1%	1.6%
	その他:・2歳組からはしを始めるのは早すぎると思う ・食が細いので、楽しいかは不明					

昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	47	16	0	0	1	0
	73.4%	25.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他：・おやつを昼寝の後に食べさせているようなので、臨機応変に対応してほしい					
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	37	19	2	3	3	0
	57.8%	29.7%	3.1%	4.7%	4.7%	0.0%
	その他：・オムツがはずれる時期でないので不明(3件) ・オムツトレーニング状況を詳しく説明してほしい(不満に○)					
お子さんの体調への気配りについては	42	20	0	2	0	0
	65.6%	31.3%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	38	16	7	1	2	0
	59.4%	25.0%	10.9%	1.6%	3.1%	0.0%
	その他：・まだ、ケガをしていないので分からない ・報告されず、子どもから聞くことがあった					

## 問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園舎、園庭などの施設については	53	8	2	0	1	0
	82.8%	12.5%	3.1%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他：・園自体が立地的に地震に耐えられるのか不安					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	50	13	1	0	0	0
	78.1%	20.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
外部からの不審者侵入に対する備えについては	44	18	1	0	1	0
	68.8%	28.1%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他：・指紋認証は行っているが、共連れされると侵入可(難しい問題だと思うが)					
衛生管理や感染症対策については	42	18	3	1	0	0
	65.6%	28.1%	4.7%	1.6%	0.0%	0.0%
	その他：・子どもと注意深く見てほしい(どちらかといえば満足に○)					

## 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	30	29	3	0	2	0
	46.9%	45.3%	4.7%	0.0%	3.1%	0.0%
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	46	14	3	0	1	0
	71.9%	21.9%	4.7%	0.0%	1.6%	0.0%
	その他：・行事や準備するものがある時は、もう少し早目に伝えてほしい（どちらかといえば不満に○） ・どのように生活しているのか分からないので、日中の様子をネットを通していつでも見れる状況にしてくれると安心。					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	42	19	2	1	0	0
	65.6%	29.7%	3.1%	1.6%	0.0%	0.0%
	その他：・月末や週末などが少し多い。忙しい時と重なる時がある（どちらかといえば不満に○）					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	32	26	3	1	2	0
	50.0%	40.6%	4.7%	1.6%	3.1%	0.0%
	その他：・クラスによる（どちらかといえば不満に○） ・こちらから聞かないと具体的な説明がない時がある。全体の様子は答えられるが、個々の様子は具体的な回答が少ない時がある ・ケガなどはあれば伝えてくれるが、知りたいことが伝えてくれた先生に聞いても分からず、他の先生に聞いていることがあった					
お子さんのに関する重要な情報の連絡体制については	37	20	3	2	1	1
	57.8%	31.3%	4.7%	3.1%	1.6%	1.6%
	その他：・担任以外（時間外）の先生にも伝わっているか心配					
保護者からの相談事への対応には	36	23	2	2	1	0
	56.3%	35.9%	3.1%	3.1%	1.6%	0.0%
	その他：・話は聞き入れてもらっていると思うが、その後、もう少し長い期間対応してほしい					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	55	5	0	2	2	0
	85.9%	7.8%	0.0%	3.1%	3.1%	0.0%
	その他：・遅くなったことがない ・もう少し柔軟に対応してほしい					

## 問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	47	12	2	1	2	0
	73.4%	18.8%	3.1%	1.6%	3.1%	0.0%
	その他：・ぽつんと一人にいるときがあるのではないかと心配・・・先生には常に子どもへの声かけをお願いしたい					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	49	11	0	4	0	0
	76.6%	17.2%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	36	14	2	1	8	3
	56.3%	21.9%	3.1%	1.6%	12.5%	4.7%
	その他：・分からない ・自分の子がそうでないのでよく分からない(5件) ・障害児と関わりがないので分からない					
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	39	17	2	3	3	0
	60.9%	26.6%	3.1%	4.7%	4.7%	0.0%
	その他：・特に伝えたことがない ・不満を言うことで子どもに嫌がらせをされてしまうのではと思うと言えない ・子どもを預かってもらっているので言いづらい					
不満や要望への対応については	30	27	1	4	2	0
	46.9%	42.2%	1.6%	6.3%	3.1%	0.0%
	その他：・子どもを預かってもらっているので言いづらい					

## 問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	無回答
総合満足度は	50	12	1	0	1
	78.1%	18.8%	1.6%	0.0%	1.6%

# 利用者本人調査取りまとめシート(港南はるかぜ保育園)

## 結果の特徴

### 【調査対象】

園児 141 人のうち、園側に予めリストアップしていただいた 10 名（園児の 7.1%）を調査対象とした。[1～2 歳児 1 人、3 歳児 1 人、4 歳児 2 人、5 歳児 6 人]

[調査対象者の概要と施設全体の対比]

	回答者年齢	人数	内訳	園全体の人数
保育観察	0～2 歳	1 人	女児 1 人	57 人
	3～4 歳	3 人	男児 2 人・女児 1 人	46 人
聴き取り調査	5～6 歳	6 人	男児 3 人・女児 3 人	38 人

### 【調査方法】

#### 《保育観察》

調査員 2 名が 0～4 歳の 4 名を保育の現場で、施設側から提供された利用者情報シートを参考に遊び・食事・排泄・午睡等の保育状況を観察した。

#### 《本人聴き取り調査》

5～6 歳の 6 名を対象に、食事・遊び・排泄等について聴き取り調査を行った。食事については給食を共にしながら、また遊びなどについても活動中の子どもたちの脇で聴き取りを行い、より自然な形で意見聴取に配慮した。

### 【保育観察の結果】

#### 《全体のコメント》

○子どもたちは、概ね穏やかに自分のペースで過ごし、保育園での生活を十分に楽しんでいる様子が感じられた。園庭での鬼ごっこやボール遊びでは、スペースを十分に使い声をあげて駆け回り、また砂場でのおままごとなど、保育士とともに一緒に楽しく遊んでいた。

○保育室での製作活動では、保育士の話を静かに聴き、落ち着いた雰囲気が感じられた。

○子ども同士けんかをする場面があったが、対応した保育士はお互いの言い分を聴いて、均等に接している様子が見受けられた。

○背丈の低い間仕切りでのオープンスペースの室内は、隣のクラスの子どもの声が若干気になったが、予想外に子どもたちからはそれらを気にする様子はまったく感じられず、みんな集中していた。

＜遊び＞ それぞれクラス毎に分かれ、園庭では裸足になった子どもたちが元気に体いっぱいを使って鬼ごっこやボール遊び、砂遊びなど、また保育室内では折り紙やぬり絵など、それぞれが思い思

いに楽しく過ごしていた。砂場での「おままごと」では砂で団子をつくり、「どうぞ」と保育士に渡し、「よく出来たね、ありがとう」という保育士の返事には笑顔を浮かべ、満足げな表情だった。

**<食事>** 食事の場面では、当日のメニューであったパン・お肉（細かく切った豚カツ）・スープをおいしそうに黙々と食べていた。食事の遅い子も他の子どもたちに影響されることなく、マイペースで最後まで食べていた。食欲は旺盛で、パンやスープを多くの子どもがおかわりしていた。

**<排泄>** 遊びの合間など、随時保育士が声かけを行っていた。無理強いすることなく、子どものペースや様子を観察しながら対応していた。砂場遊びの最中に、「ウンチ出た」と保育士に伝えた場面では、保育士は速やかに子どもの手を取り園内のトイレへ連れて行き、排泄対応をしていた。

**<午睡>** 午前での遊びで疲れたのか、ほとんどの子どもがすぐに寝入っていた。午睡時間が終わってもなかなか起きない子どももいたが、保育士は急かして無理に起こすことなく、本人自身が目をさまし、起きた後の対応も「おはよう。起きたね」と穏やかな表情で話し、接していた。

## **【本人聴き取り調査の結果】**

### **《全体のコメント》**

○明るく素直に答えてくれる子どもが多かった。

○すべての子どもが保育園での生活は楽しいと答えている。また、「食事の時間が楽しみですか？」の質問にも全員が「はい」と答え、おかわりを楽しみにしている回答も聴かれた。

○職員の対応については、ほぼ全員の子どもの「先生はやさしい」と答えており、保育士の動きや対応からも、優しく丁寧に接している様子がうかがえた。

## **【質問項目別の特徴】**

**<遊び>** 回答者全員が「保育園での遊びが楽しい」「好きな遊びがある」と答えている。好きな遊びはドッチボールやすべり台、鉄棒などの屋外遊びと、折り紙やお絵かき、ブロック遊びなど室内遊びを挙げる等様々であった。

**<食事>** すべての子どもが「食事の時間は楽しい」「楽しみ」と答えている。「食べられない時には残せますか」の問いには、概ねの子どもは「残せる」と回答している。

**<排泄>** 「トイレは行きたい時に自由に行けることになっている」と、すべての子どもが回答している。

**<清潔・着替え>** 回答した子どもからは、「ケガをした時、先生が助けてくれる」「汗をかいた時は着替えさせてくれる」「大丈夫？って言ってくれる」など、すべて肯定的な答えとなっており、



保育士は子どもにやさしく接していることがうかがえた。

**<権利>** 友だちとけんかをした時などの保育士の対応については、ほとんどの子どもが「先生がよく話を聴いてくれる」「止めてくれる」と答えている。名前の呼び方については「〇〇くん」「〇〇ちゃん」など、呼び捨てにはしていない。

**<職員対応>** 「先生はやさしい。」との回答がほとんどであった。「先生はかわいい」と答える子どももいた。園長先生については、「怒るとこわいけど、やさしい」「ドッジボールで一緒に遊んだ」という声も聴かれた。

## 事業者からの意見(コメント)シート

- ・ 第三者評価を受審するにあたり、日常を評価していただくことを意識しながらも、書類の整理とマニュアルの見直し、職員への周知を心掛けました。業務マニュアルと、安全マニュアルに分け、内容を解りやすく具体的にすることで、職員への周知を図ることが出来ました。
- ・ 環境衛生面では、日頃からの清掃や活動などチェック表を利用しており、チェックした箇所をさらに確認することにしました。第三者的な目を見た施設環境は様々な面で恵まれていると感じており、その良い所をアピールしさらに保育に活かせればと考えています。
- ・ 地域支援やサービス内容は、24 時間型緊急一時保育事業の実施や一時保育の利用者数の多さ等を評価して頂き、大変うれしく思います。
- ・ 園の基本方針を全員で理解することで、共通の価値観をもって目標に向かい、保育に携わることの大切さを実感しました。そして自分たちの保育を客観的にみる良い機会となりました。評価委員の方に、限られた時間の中で、第三者の視点から細やかにみて頂き、誉めて頂いたり、アドバイスを頂いたり、とても勉強になりました。改めて自分たちが日常している行動を見直し、一つの目的に向けて職員全員が統一し「和」になれたことに感謝します。